

【研究紹介：国外学術誌掲載論文から】

日本の小学生における実際の生活時間と自由時間に 「やりたいこと」との関連

石濱加奈子¹⁾²⁾, 鹿野 晶子³⁾, 野井 真吾³⁾

¹⁾ 洗足こども短期大学

²⁾ 日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程スポーツ教育・健康教育学系

³⁾ 日本体育大学教育福祉系

掲載誌：

Kanako Ishihama, Akiko Shikano and Shingo Noi (2020). What Japanese Children Actually Do and What They Wish To Do in Their Free Time, *Child Care in Practice*, Published online: 18 Sep 2020.

doi: 10.1080/13575279.2020.1809348

Keywords:

Japanese children, free time, play, recreational activity, rights of play

日本の子ども, 自由時間, 遊び, レクリエーション活動, 遊びの権利

論文概要

本研究の目的は、日本における小学生の生活時間と自由時間にやりたいと思うこととの関連を検討し、子どもの自由時間に関する課題を明らかにすることであった。対象は、1都4県12校の公立小学校に在籍する3～6年生の男女1,230名であった。調査では、自己記入による無記名式調査票を用いて、性、学年、生活時間（学校関連時間、習い事時間、塾時間、屋内遊び時間、屋外遊び時間、スポーツや習い事の練習時間）、自由時間にもっともやりたいこと（11項目の選択肢から選ぶ）に対する回答を求めた。その結果、自由時間にもっともやりたいことに多く選ばれたのは「ゲーム機、携帯電話、スマートフォン、タブレット、PCなどを使う」であり、次いで「からだを動かして遊ぶ」であった。もっともやりたいことと生活時間との関連では、やりたいこととやっていることが一致する結果となった。このことから、活動時間が不十分なためにもっとやりたいと望んでいる、もしくは活動の経験がないためにそれしか選ぶことができない、という姿が浮き彫りとなった。そのため、子どもの自由時間が不足していること、および自由時間におこなう活動の伝承がされていないことが懸念された。

Table 1. Relation between “what do you want to do most, if you have free time?” and actual living time (binomial logistic regression analysis) (Ishihama, K., Shikano, A. and Noi, S. (2021). What Japanese Children Actually Do and What They Wish To Do in Their Free Time より引用)

Explanatory variable	Screen time activity			Physical activity			Practice of sports and lessons		
	Regression coefficient	Odds ratio	95% confidence interval	Regression coefficient	Odds ratio	95% confidence interval	Regression coefficient	Odds ratio	95% confidence interval
Gender									
Grade									
School related time									
Outdoor play time									
Indoor play time									
Lesson time									
Cram school time									
Practice time of sports and lessons									

* p<0.05